



日本語学習ポートフォリオを活用してみよう

—移動する学習者のための日本語能力評価—

公益社団法人国際日本語普及協会 品田潤子

分科会③の流れ

1. 5点セットのおさらい
2. 日本語能力評価の考え方（役割と活用方法）
3. 日本語学習ポートフォリオを見てみよう。
4. 毎回の学習記録シートを考えてみよう。 グループ
ワーク
5. まとめ・質疑応答

1. 5点セットのおさらい

5点セット開発経緯

平成19年7月	分科審議会国語分科会に日本語教育小委員会を設置する。
平成20年	同委員会において「生活者としての外国人」に対する日本語教育の体制整備及び内容の改善について検討する。
平成21年1月	「国語分科会日本語教育小委員会における審議について—日本語教育の充実に向けた体制整備と「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容等の検討—」のとりまとめを行う。
平成22年5月	『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を作成（カリキュラム案）
平成23年1月	『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』を作成（ガイドブック）
平成24年1月	『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』を作成（教材例集） 『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について』を作成（能力評価）
平成25年2月	『「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について』（指導力評価）

「生活者としての外国人」に対する日本語教育 の目的・目標(ハンドブックp.5)

目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになる

目標

- 健康かつ安全に生活を送る
- 相互理解を図り、社会の一員として生活を送る
- 自立した生活を送ること
- 文化的な生活を送る

5点セットの全体像について (ハンドブックp.7~8)

背景・課題

【グローバル化】

【目的に対応した日本語教育の必要性】

対応

〈だれが〉

- ・一義的には各都道府県、市町村における日本語教育担当者及びコーディネーター的役割を果たす人

〈だれに対して〉

- ・「生活者としての外国人」（全ての外国人の生活の側面）

〈何をするのか〉

- ・生活上の基盤を形成する上で必要な日本語教育を行う際の内容・方法

「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

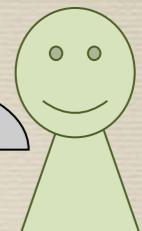


教室活動のデザインと参加

教室活動の内容について

学習者について

参加



行動・体験中心の教室活動への参加による日本語学習、相互理解

指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成:平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成:平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせるときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成:平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成:平成24年1月31日

能力評価

◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成:平成24年1月31日

カリキュラム案

カリキュラム案で扱う生活上の行為

I 健康・安全に暮らす

01 健康を保つ

- (01) 医療機関で治療を受ける
- (02) 薬を利用する
- (03) 健康に気を付ける

02 安全を守る

- (04) 事故に備え、対応する
- (05) 災害に備え、対応する

II 住居を確保・維持する

03 住居を確保する

- (06) 住居を確保する

04 住環境を整える

- (07) 住居を管理する

III 消費活動を行う

05 物品購入・サービスを利用する

- (08) 物品購入・サービスを利用する

06 お金を管理する

- (09) 金融機関を利用する

IV 目的地に移動する

07 公共交通機関を利用する

- (10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する
- (11) タクシーを利用する

08 自力で移動する

- (12) 徒歩で移動する

VII 人とかかわる

14 他者との関係を円滑にする

- (31) 人と付き合う

VIII 社会の一員となる

15 地域・社会のルール・マナーを守る

- (33) 住民としての手続をする
- (34) 住民としてのマナーを守る

16 地域社会に参加する

- (35) 地域社会に参加する

IX 自身を豊かにする

20 余暇を楽しむ

- (44) 余暇を楽しむ

X 情報を収集・発信する

21 通信する

- (45) 郵便・宅配便を利用する
- (46) インターネットを利用する
- (47) 電話・ファクシミリを利用する

22 マスメディアを利用する

- (48) マスメディア等を利用する

※カリキュラム案(p.12~13)に、さらに具体的な生活上の行為の事例を掲載しています。

要素の例

健康・安全に暮らす

健康を保つ

医療機関で治療を受ける

適切な医療機関の選択をする

隣人に様態を伝え情報を求める

- やりとりの例 膝が痛いんですが、どこの病院に行ったらいいですか

情報要求

• 機能

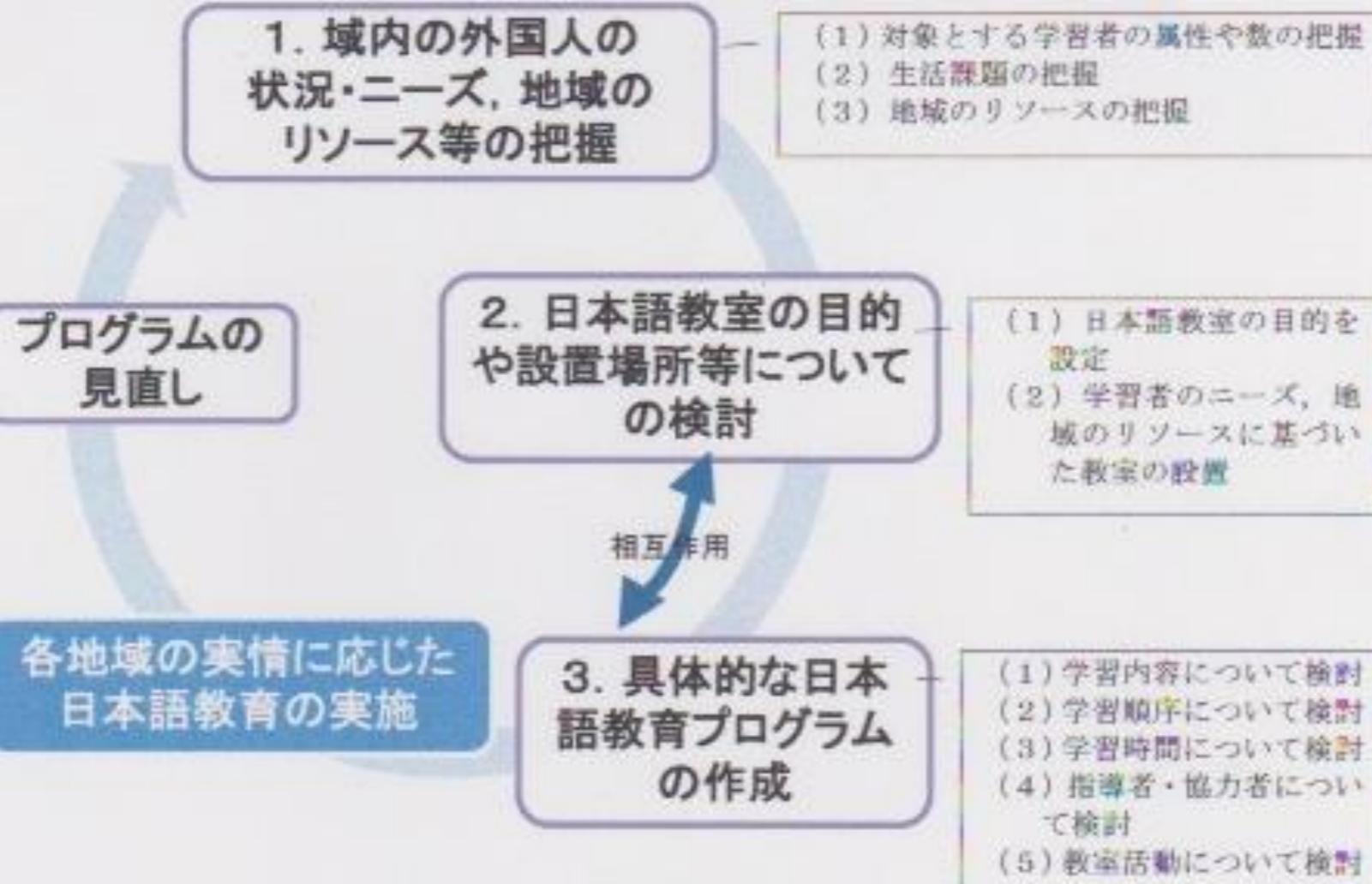
• 文法

• 語彙

• 4技能

ガイドブック

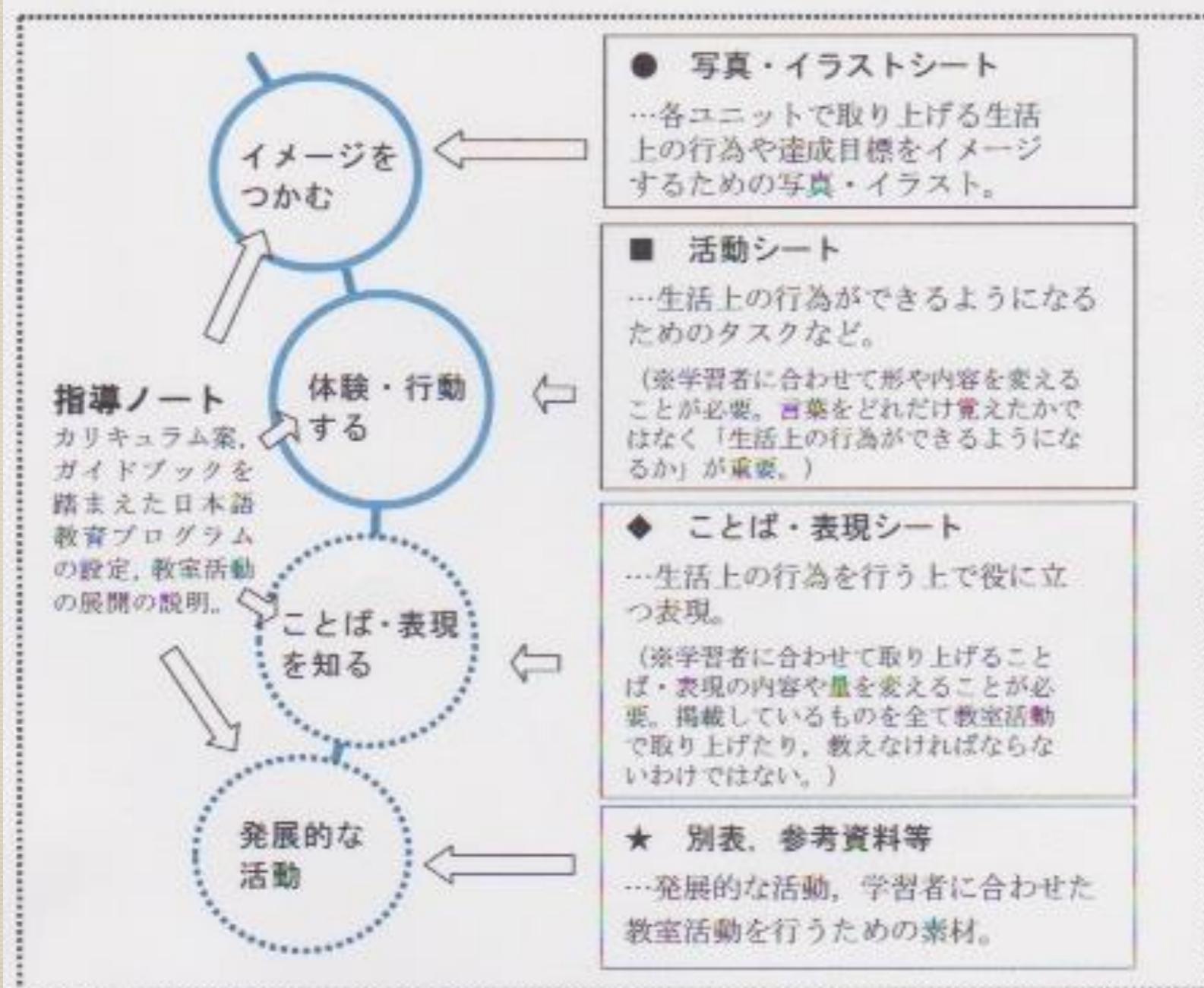
日本語教育プログラムの作成手順 ※簡略版



※ ガイドブック (p. 7) に、さらに具体的な作成手順を掲載しています。

教材例集

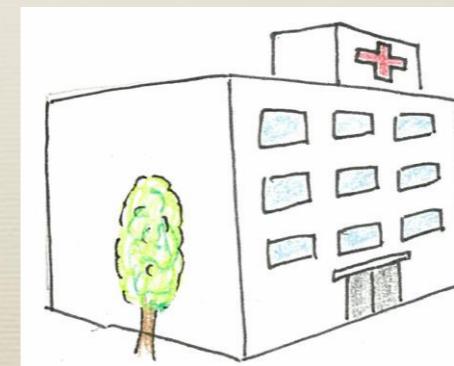
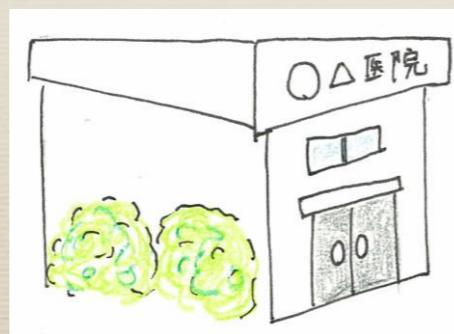
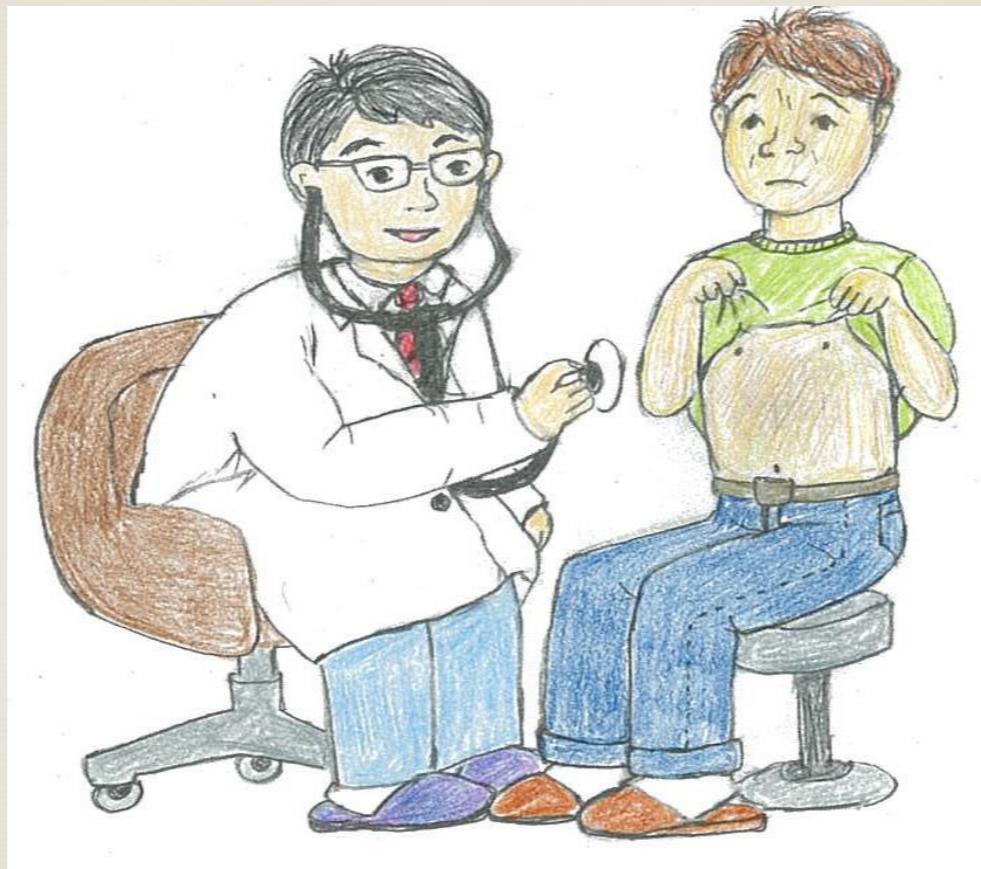
各教材例の構成の図



教材例集

地域での医療機関の活用について話し合うことができる。

- 病気に なったら...



「生活者としての外国人」に対する日本語教育プログラムの実践のための5点セット

指導者について

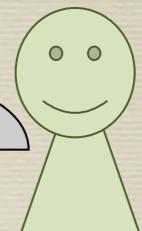


教室活動のデザインと参加

教室活動の内容について

学習者について

参加



行動・体験中心の教室活動への参加による日本語学習、相互理解

指導力評価

◎実践の振り返り・点検・改善から、実践者のコミュニティの形成

【内容】
日本語教育プログラムの実践をPDCAサイクルの観点から振り返るためのもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について

作成:平成25年2月18日

カリキュラム案

◎教室活動で取り上げる内容を考える材料の提示

【内容】
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の内容を示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案について

作成:平成22年5月19日

ガイドブック

◎カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせるときのポイントの解説

【内容】
カリキュラム案の内容を地域や外国人の状況に合わせて実施するときのポイントを示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案活用のためのガイドブック

作成:平成23年1月25日

教材例集

◎行動・体験中心の教材の例示

【内容】
カリキュラム案で取り上げている生活上の行為を取り上げ、行動・体験中心の教室活動で用いる教材を例示したもの（教室活動の展開や工夫の仕方を説明した指導ノート付き）。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 教材例集

作成:平成24年1月31日

能力評価

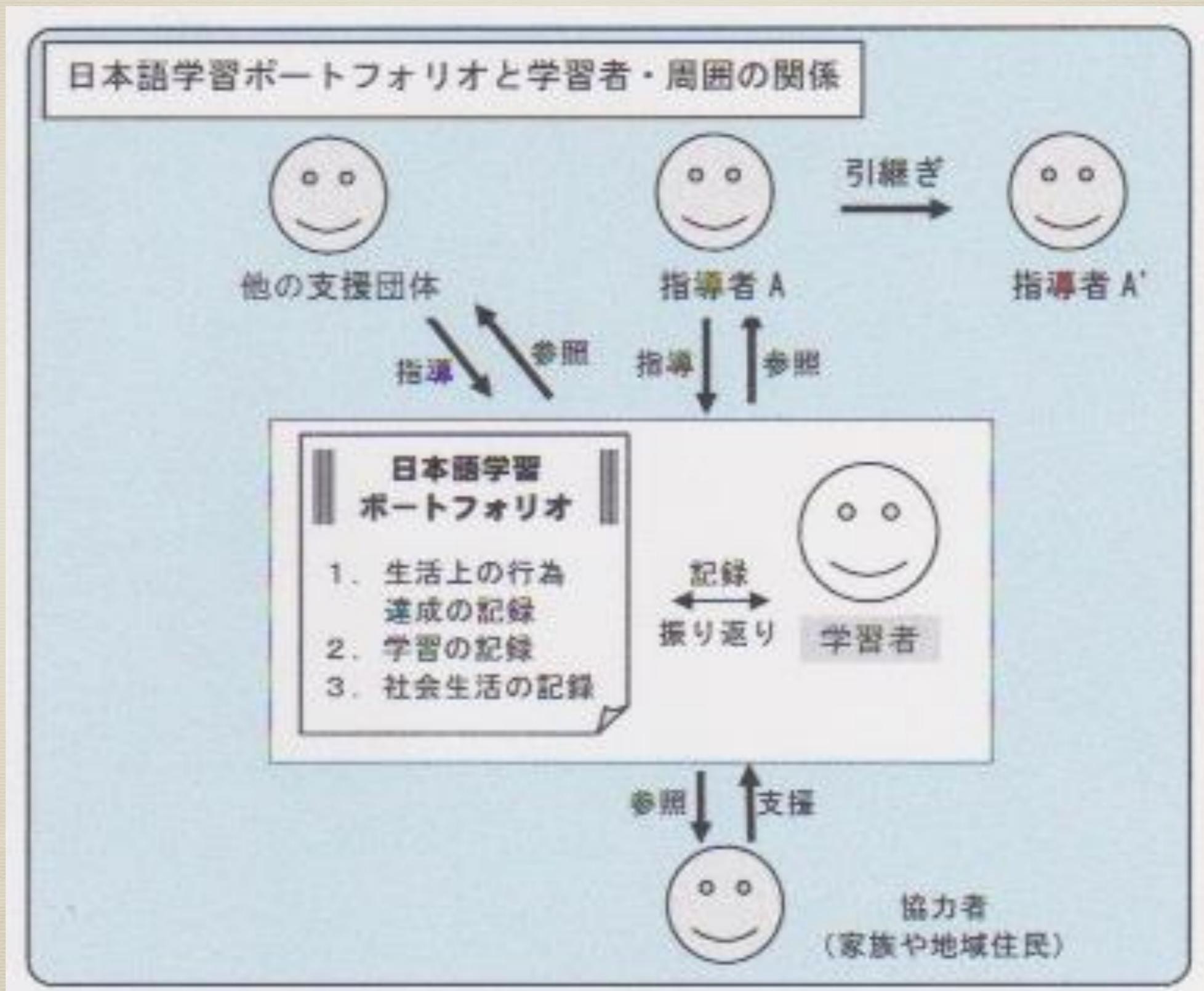
◎振り返りの方法とポートフォリオの提示～やったことを確認して記録

【内容】
学習者の自己評価に加えて、日本語能力を把握する方法と、学習成果を記録し蓄積するファイルである日本語学習ポートフォリオを提示したもの。

※正式名称
「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

作成:平成24年1月31日

能力評価



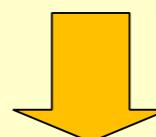
指導力評価

【参考】

指導力評価における日本語教育プログラムのPDCAサイクル

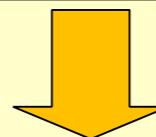
Plan(企画)

- I 地域の状況の把握
- II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置
- III 具体的な日本語教育プログラムの作成



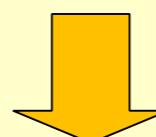
Do(実施)

- IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施



Check(点検)

- V 日本語教育プログラムの点検



Action(改善)

- VI 日本語教育プログラムの改善

※PDCAサイクルに基づき、指導力の向上や日本語教育プログラムの改善を行い、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現へ

2. 日本語能力評価の考え方 (役割と活用方法)

「生活者としての外国人」に対する日本語教育 能力評価の考え方

移動する学習者

- ▷ 実情に合った評価
- ▷ 継続学習の支援となる評価

「生活者としての外国人」に対する日本語教育 能力評価の考え方

移動する学習者

- ▶ 実情に合った評価
- ▶ 継続学習の支援となる評価

- ▶ 学習者の日本語学習の履歴と能力を把握し、
日本語学習・学習動機の維持を継続的に支援
する

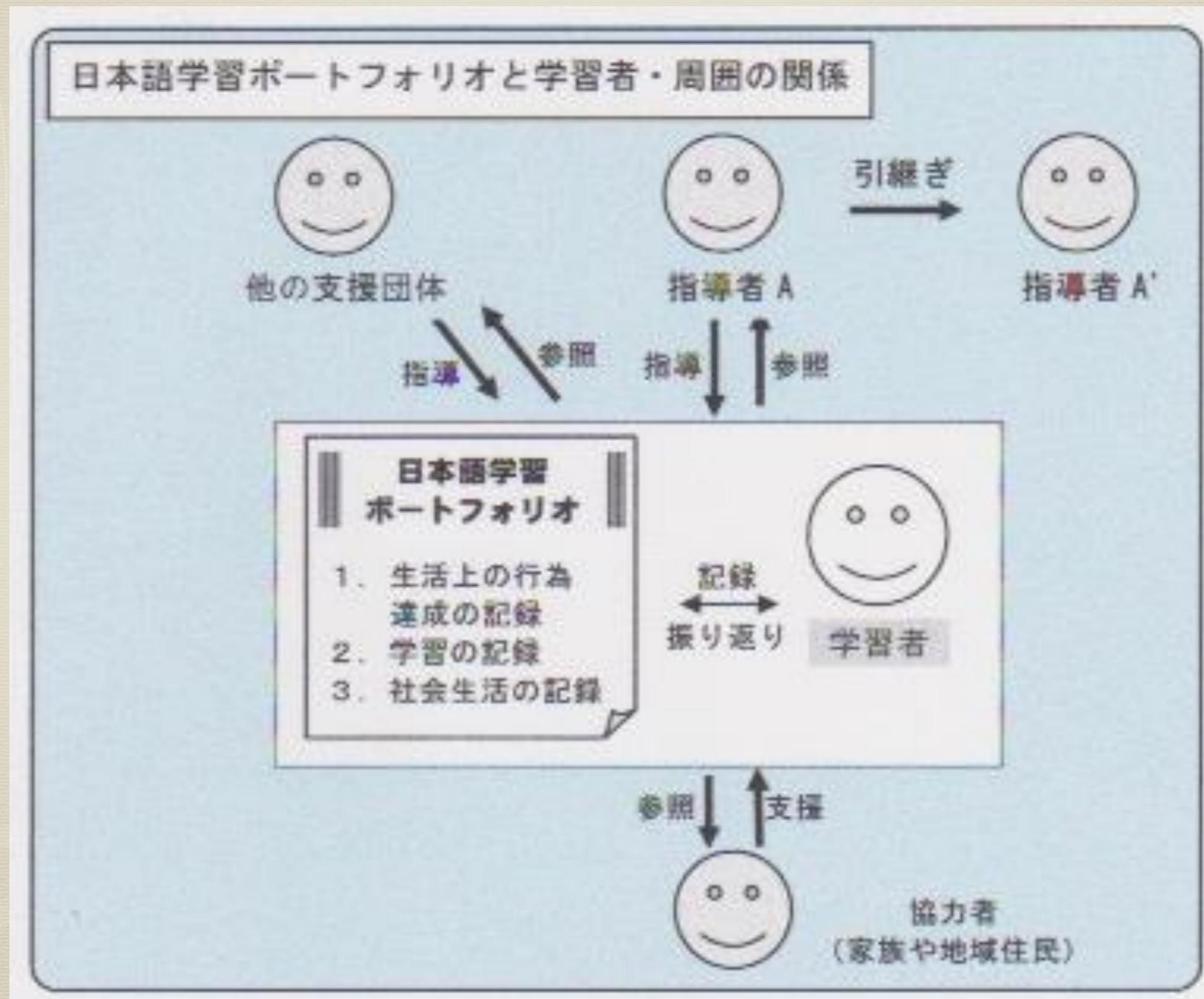
基本的な考え方 (p15)

(1) 能力評価の目的 能力評価の方法	<ul style="list-style-type: none">・学習者が自身の学習状況を把握する・学習者が日本語学習を継続させていく・指導者がより適切に指導する <ul style="list-style-type: none">・教育実践の過程で行う・ポートフォリオ評価
(2) 評価者	<ul style="list-style-type: none">・自己評価と他者評価の組み合わせ (学習者) (指導者)・結果に関する双方によるやりとりを改善に活用する
(3) 評価の観点	<ul style="list-style-type: none">・生活上の行為の達成度 (日本語に関する知識や情報の量・理解度ではない)・社会参加の広がり度
(4) 評価の枠	<ul style="list-style-type: none">・尺度「一人でできるか」「助けが必要か」・4段階 「よくできた」「できた」「何とかできた」「もう一息」
(5) 評価の手続き・方法	<ul style="list-style-type: none">・日本語学習、使用の実態を記録・タスクに基づき「できるようになったこと」を記録・記録に基づく振り返り、学習の継続

ポートフォリオの構成 (p.16)

1. 生活上の行為達成の記録
2. 学習の記録
3. 社会生活の記録

ポートフォリオの学習者・周囲の関係 (p.17)



学習者・指導者・協力者の役割

だれが	どう使うか
学習者	できるようになったことを確認する。 これから日本語学習の目標や計画を立てる。
指導者	学習者と一緒に日本語学習の目標や計画を立てる。 できることを確認し、教室活動を考える際の参考とする。
協力者 (家族や地域住民)	学習者が日本語できることを確認するだけでなく、必要な支援を知る。

標準的なカリキュラム案を活用した学習のサイクルと
日本語学習ポートフォリオを中心とした評価の全体像

④【学習者・指導者】
日本語の学習と経験の
成果の蓄積と振り返り

①【学習者】自己分析、目標設定
【指導者】学習項目の設定、教室活動の組み立て
【学習者・指導者】学習の振り返り、新たな目標設定

タスク

生活上の行為
達成の記録

標準的なカリキュラム案

生活上の行為の事例
能力記述

などを活用

日本語学習
ポートフォリオ

社会生活の記録

学習の記録

③【学習者】
日本語を使った生活経験
の蓄積と振り返り

②【学習者・指導者】
日本語学習の蓄積と振り返り

3. 日本語学習ポートフォリオを見てみよう

日本語学習ポートフォリオ(p.52–80)

1. 生活上の行為達成の記録
2. 学習の記録
3. 社会生活の記録

手順と例

- ① 学習者と学習目標を共有する
⇒ 「生活上の行為の事例の一覧」多言語版を活用する
- ② 学習目標を意識して行動・体験中心の教室活動を計画、実施する
- ③ 成果（「行動・体験したこと」、「できるようになったこと」）をポートフォリオに記載する
⇒ 使いやすいポートフォリオを工夫する

実施事例

- ① コース開始時に学習したい項目について
学習者の母語でアンケートをする
- ② アンケート結果からプログラムを作成する
- ③ 一つの項目を学習する度に学習者と教師が
評価をする
- ④ 学習者の成果物（作文・発表資料など）を
ファイルする

- 1 ポートフォリオ評価
 - () 使ったことがある
 - () 使ったことがない

2. ポートフォリオ評価について

- 1) 良いと思う点

-
-
-

- 2) 難しいと思う点

-
-
-

キーワードを書いてください。

- 1) 良いと思う点

- 自己評価
-
-

グループ作業

- 1 ポートフォリオ評価
- () 使ったことがある
() 使ったことがない

2. ポートフォリオ評価について

1) 良いと思う点

-
-
-

2) 難しいと思う点

-
-
-

①簡単な自己紹介をしながら
シートに書き込んだ内容を
グループのメンバーに
伝えてください。

②多く挙げられたキーワードを
メモしてください。

「できる」とはどういうことか？

「できない」とはどういう状態か？



この間にあるものは何？

「できた」とはどういう状態か？

「できる」

生活上の行為	4技能 /情報	年月日	場所 (教室名)	私の 評価	指導者の 評価
I 健康・安全に暮らす					
01 健康を保つ					
(01)医療機関で治療を受ける					
01 暫人に容態を伝えて助言を求める	話聞				
02 初診受付で手続をする	話聞読書				
03 医者の診察を受ける	話聞				
04 病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する	話聞				
<医者とやりとりをする>					
03 医者の診察を受ける	話聞				
04 病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する	話聞				

I 健康・安全に暮らす

01 健康を保つ

(01) ● 医療機関で治療を受ける

0101 適切な医療機関の選択をする

0101060 ★ 晴人に容態を伝えて助言を求める

- ・体の名称が分かる
- ・症状の名称が分かる
- ・晴人に症状を伝えることができる
- ・内科、歯科など診療科の名称が分かる
- ・晴人に適切な診療科、医療機関の助言を求めることができる
- ・晴人に適切な医療機関の所在を聞くことができる

0102 問診票に記入する

0102010 ★ 初診受付で手続をする

- ・初診であることを伝えることができる
- ・自身の保険証の内容が理解できる
- ・保険証についての質問が理解できる
- ・問診票の記載事項が理解できる
- ・問診票などに住所、氏名、症状などを記入することができる
- ・「受付→待合室→診察室→待合室→会計」といった受診の行動の流れが理解できる

0103 医者の説明・指示を理解し、応答する

0103010 ★ 医者の診察を受ける

- ・症状を伝えることができる
- ・症状が始まった時期を伝えることができる
- ・症状の程度を伝えることができる
- ・医者の診察、指示が理解できる
- ・注射、レントゲンなどの医療機器の名称が分かる

0103120 ★ 病気への対処法・生活上の注意などを質問し答えを理解する

- ・病気への対処法・生活上の注意を尋ねる
- ・病気への対処法・生活上の注意を理解できる
- ・医療機関の診療曜日、診療時間が分かる
- ・次回の予約の方法が分かる

ロールプレイタスクによる「評価」

よくできた	学習者が、その場面で期待される最低限の目的以上のことを、母語話者から特別な援助や配慮なしで達成できる状態
できた	その場面で期待される最低限の目的が、母語話者からの特別な援助や配慮がなくても達成できる状態
なんとかできた	その場面で期待される最低限の目的が、母語話者からの特別な援助や配慮（ゆっくり繰り返す、別の言葉で言い換える、相手の発話を辛抱強く待つ、相手の言いたいことを推測して確かめる、一部で相手の母語を使って説明する、など）を受けることでどうにか達成できる状態
もう一息	意思疎通がうまく成立しない、またはその場面で期待される最低限の目的も達成できたとはいえない状態

**4. 毎回の学習記録シートを
考えてみよう**

継続的に使えるシートとは？

- 楽しめるシート
- 教材と一体化したシート
- 役に立つシート
- 支援システムと一体化したシート

教材と一体化したシートの例

○月○日

今日のテーマ

- ・町内会のバーベキューに
参加する

目標

- ・チラシを読んで参加申し込みを
する

学んだこと

バーベキュー大会のお知らせ

日時:

場所:

会費:

申し込み方法:

5. まとめ・質疑応答

これから取り組むべきこと

- ▷事例の蓄積
- ▷事例の共有